

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103234		
法人名	医療法人社団 護洋会		
事業所名	グループホーム高橋クリニック第二		
所在地	〒502-0849 岐阜県岐阜市栄新町3-30		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2170103234&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ギふ住民福祉研究会		
所在地	〒5016232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の残存機能の活用や理学療法士の指導の下、歩行訓練等の機能訓練に積極的に取り組んでいる。
 運営主体が医療法人である事で、医療面が充実しており、利用者一人一人の状態把握が成されている。常時、医師や看護師との連携が密に取られており、日々のケア及び終末期を安心して過ごしていただける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が医療法人であり、医療機関との連携体制が確立している点が、このホームの特徴である。毎日午前・午後に、併設クリニックの医師の往診があること、急変時は昼夜を問わず、医師、看護師の対応が可能であることは、利用者、家族の大きな安心につながっている。このような充実した医療的環境の下、ストマや酸素吸入の必要な人の生活も可能となり、利用者、家族の希望があれば、看取りも行っている。入居者は、ホーム内でのレクリエーションや併設デイサービスでの活動に参加したり、写真や書道などそれぞれの趣味を生かして余暇を楽しみながら、穏かな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に密着した医療と介護を行う」事を目指し地域との関わりを常に念頭に於き住み慣れた場所と地域住民との信頼関係を構築した主治医の下で安心した暮らしを提供している。	ホームでは法人全体の運営理念「地域に密着した医療と介護を行う」をより具体化し、「明るく、楽しく、嘘をつかない」を日々のケア理念として掲げ、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のディサービス主催の夏祭りには、地域の方々の参加される。また、地域の方もボランティアとして参加して下さっている。地域の中学生との交流を、年に何度か行っている。	ホーム内で行われるリクレーションやクリスマス会などを催す際には、地域の老人会会長に呼びかけ、積極的に参加して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会長さんを通じて、グループホームの内容や、行事等を広めて頂いている。随時、介護相談も受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多方面の方々の意見・要望・助言を頂ける様、話しやすい雰囲気作りを努めている。会議内容や意見等は、他の職員に伝え、ケアの向上に活かしている。	2カ月に一度、入居者、家族、民生委員、老人会会長、地域包括支援センターや介護保険課の職員に呼び掛けて会議を開催し、入居者の様子や行事の報告等をしている。家族の意見を聴きたいと願っているが、出席者が少ないのが現状である。	会議においては、ホームの具体的な課題を提示し、その解決のために地域の協力や理解を得られるような働きかけをしていくことが望まれる。議事録の作成を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも月に一度以上は市役所に行く機会があり担当者とも顔なじみが出来ているので、疑問点や問題点について相談にのってもらいサービスの向上に努めている。	岐阜市介護保険課と連携し、たえず変化する高齢者福祉施策や制度について、常に最新の情報を得られるようにしている。担当者と連絡を密にし、協力関係を構築できるよう、努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は時間を決めて開放し常時の施錠は行っていない。身体拘束も險が起りうる場合を除いては行っていない。今後も、職員の身体拘束への知識を深め、取り組んで行きたい。	玄関に鍵をかけることへの弊害を管理者及び職員は理解し、積極的に話し合っている。利用者のアセスメントに基づき、必要のない場合は、日中の玄関の施錠はなくし、拘束の緩和に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどの機会を利用し、職員に対し「高齢者虐待防止関連法」の理解を図り、施設内での虐待は、必ず起こさせないように努め日々、利用者や家族の立場になって介護が出来る様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある利用者に対して選択肢の一つとして話をしている。今後必要な方が利用される可能性もあるので、徐々に勉強できる機会を持つよう、努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書にそって説明を行い相談に乗るようにしている。又その際に退居の事由となる事柄についても説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、自治会を設け、意見・要望を聞く機会をつくっている。家人には意見箱の設置と岐阜県運営適正化委員会のポスターを掲示し、また、グループホーム内にも苦情受付担当者と苦情解決責任者を決めている。	入居者の自治会を設け、意見や要望を言って頂けるよう、働きかけている。家族に対しても呼びかけを行っているが、なかなか言ってもらえないのが現状である。要望が出たときは、直ちにスタッフ間で共有し、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りミーティングや、必要に応じカンファレンスを開き、話し合いの場を設けている。	職員間のチームワークが非常によく、ホームの運営に関するスタッフ一人ひとりの気づきを全員で共有し、利用者にとってより良いホームにしていこうとする姿勢がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が把握しており、常時報告し、又代表者も日に何度か往診でみえるため事業所の状況の把握は行えているため職場環境や条件の整備はおこなえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の技術・知識の向上の為、研修の案内を配布し、仕事に支障がない範囲で、参加を積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や勉強会への参加を行っている。今後はもっと積極的に行える様、検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約からサービス開始までの期間を、もっとも重要な時間であると認識しており、本人の思いや不安など、じっくり伺う時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、ご家族の思いを伺う事も重要視し、ご家族の求めている内容に対し、今後のグループホームでのケアに役立てるよう、できる事・できない事をしっかり伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャーの話を聞き、実際にご本人を訪問した後、グループホームへの入居が適切であるか、話し合いの元相談するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々は、人生の大先輩であり、介助をさせていただいているという気持ちを念頭に置き、教えて頂き、学ばせて頂いている事を意識し、日々の生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の生活の様子をご家族へ伝え、ご家族の情報や希望を教える事で、共に支えていく思いを共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで培ってきた、人間関係が途切れる事のないように支援している。その際は、ご家族の同意は必ず得ている。	利用者家族や友人とのコミュニケーションを大切に、頻りにホームを訪ねて下さるよう、常に呼びかけを行っている。いつでも自由に面会できる体制を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事など、職員も共に過ごすようにし、利用者間の関係を把握し、また、職員間での情報も共有し合い、利用者同士の関係が円滑に図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談を受け付け、必要であれば、同法人内の施設、また他施設へのサービスの紹介を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、時間の許す限り、利用者との会話の時間をもち、傾聴を行っている。意思疎通の困難な方に対しても、行動や表情等、できる限り観察するよう努めている。	併設のデイサービスに通う人、定期的にマツサージに通う人、趣味の写真や川柳を楽しまれる方など、一人ひとりの思いや希望を把握し、その人らしく暮らせる支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報の保護を念頭におき、ご家族や、本人からの話を伺い、情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの情報を元に、現在の暮らし方や過ごし方を観察し、状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立った介護計画となるよう、本人はもとより、家族・他職種の職員との話し合い、介護計画へ反映し、作成するよう努めている。	毎日の申し送り事項や、ミーティングの中から利用者のやりたい事、出来る事を職員間で話し合い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングに基づいた見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の暮らしの様子や本人の言動等を記入し、介護計画の作成時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体がクリニックであるという特性を活かし、24時間体制の診療を、本人はもとより、希望があればご家族にも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向・必要性の把握が難しく、地域資源の活用には至っていない。地域密着サービスの拠点として、今後取り組んで生きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員の利用者が、経営者であるクリニックの院長を主治医としており、連携はしっかりととる事ができる。	母体のクリニックがかかりつけ医であることから、毎日、朝夕の2回診てもらっている。医師との会話や診察から利用者は安心感を保っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、日常の健康管理・状態把握を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医師により、病院関係者との連携は密にとれており、利用者、家族への説明も丁寧に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、主治医である院長を中心に、本人・家族の意向をしっかりと伺い、ターミナルケアについての方針を決め、ターミナルケアを行っている。	本人の気持ちを大切に、家族、医師、職員が連携をとり、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。看取りの経験もあり、急変時はすぐに対応できるように、主治医と密に連携を図り、対応できる仕組みが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は院長に指示を仰ぎ、院長の到着までの間応急処置を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は、消防署の協力の下、避難訓練や初期消火の方法、消防署への通報の方法等の指導を受けている。	年に二度、消防署・老人会会長等の協力を得て、防災訓練を実施している。	地域住民や警察署の連携を図りながら、災害対策に関する理解を求め、協力体制をさらに築かれることを期待する。また、夜間を想定しての防災訓練について考えて頂ける様お願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳が守られるよう、心掛けています。また、個人情報保護法を職員全員が理解し、守られていくよう努めています。	一人ひとりの尊厳を大切にし、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。職員は、人生の先輩として敬う言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できない方が多く、気持ちを汲み取るには、日頃の利用者の様子を観察し、確認しながら支援する事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の時間を大切にしながら、孤立を防ぐ為にも、行事の案内を行い、参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る物は、利用者に決めてもらっている。理美容に関しては、ご家族が馴染みのお店に連れて行かれることもあるが、月3回訪問の理美容師を利用されている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専属の管理栄養士がたてる、栄養のバランスの取れたメニューを、指定の惣菜店に作ってもらっている。月に1~2回程度は、レクリエーションの一環として、一緒にお菓子作りを行っている。	栄養バランスを最優先に考え、食事は指定の惣菜店に依頼しているが、配膳や食器洗い等は職員と一緒にしている。	食事は単に栄養を満たすだけでなく、喜びや楽しみをもたらす考え方も取り入れ、メニューを工夫し、「食」を通じた様々な取り組みを利用者と職員と一緒に考えていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関してもアセスメントを行い、必要な栄養・水分が摂取できるよう、食事形態や内容を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯の洗浄を行っている。また、歯科衛生士の訪問を受け、状態に応じた必要なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。必要以上の紙パンツやオムツの使用は控えている。	一人ひとりの出来る力や排泄パターンを把握して、サインを見逃さずにトイレ誘導している。昼夜オムツ対応だった利用者に、昼間リハビリパンツに変え、トイレで排泄出来るように自立支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて排便コントロールを行い又、水分量を調節している。日中の体操や歩行訓練も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は、利用者の安全を考慮し、日中としている。入浴の曜日と入浴回数も希望のある方には対応している。	週2回の入浴を基本としているが、希望に沿っての入浴が出来る仕組みがある。併設のデイサービスで入浴をされる方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを観察し、快適な休息時間が取れるよう、配慮している。不眠時の対応を充分に行っても、良眠できない日が続く方に対しては、主治医・家族と相談し、薬剤を使用する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	院長の指示通り、状態に変化等の状態観察を行っている。また、薬の変更等がある場合、申し送りされ全職員が理解してケアできるよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いや、お習字・塗り絵など個々の方の得意分野でその方の力を発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の安全性を第一と考え、外出は基本的に家族の付き添いで行う事としている。同法人内のディケアの利用は、本人の希望に合わせ、定期的に行っている。	今年は花見外出が一度だけ行われたが、家族の付き添いで行うことを基本として、ホームからの外出は行っていない。天気の良い日はホームの庭先の花壇で日光浴をして、少しでも陽に当たる機会を設けている。	短時間でも戸外に出る機会を作り、外出場面をストレスの発散、五感刺激を得られる貴重なチャンスと考え、日々の中で活かして行けるような働きかけを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお財布を持ち、少額の金銭管理を行い、通信・理美容時などに使っている。家族と相談・了解を得て、今後も支援は続けていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と書中見舞いを自分で書ける方には自筆で、書けない方は職員が代筆にて家人へ発送している。玄関入り口に公衆電話が設置しており、利用者は自由に利用している。携帯電話を使用される方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に清潔にしている。フロアの飾り付けについては、利用者の方と相談しながら作品を作り、飾っている。季節感を感じられるよう、工夫している。	共用生活空間は清潔で、音や光、温度などに配慮し、居心地良く過ごせる工夫をしている。利用者が撮った写真や、毎日の日課になっているカラオケの替え歌や、季節毎の手作りの飾りつけなどが居間やローカに飾られ、暖かい雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの椅子や机の位置を、時間や活動内容に合わせて変え、気の合う利用者同士がくつろぐ事が出来る様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人・家族の方と相談のうえ、今まで使っていた馴染みの物を、可能な限り持ってきていただいている。	タンスや鏡、思い出の品々が持ち込まれ、利用者の居心地良さの配慮をしている。好きな歌手のポスターを貼ったり、思い出の写真や切り抜きを貼りだしたりして、思い思いの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレまでの道順を記したり、イラスト入りの張り紙をし、どなたが見ても分かるよう工夫している。各居室に目印となる暖簾を取り付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103234		
法人名	医療法人社団 護洋会		
事業所名	グループホーム高橋クリニック第二		
所在地	〒502-0849 岐阜県岐阜市栄新町3-30		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaiogosip/infomationPublic.do?JCD=2170103234&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ギふ住民福祉研究会		
所在地	〒5016232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の残存機能の活用や理学療法士の指導の下、歩行訓練等の機能訓練に積極的に取り組んでいる。
 運営主体が医療法人である事で、医療面が充実しており、利用者一人一人の状態把握が成されている。常時、医師や看護師との連携が密に取られており、日々のケア及び終末期を安心して過ごしていただける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に密着した医療と介護を行う」事を目指し地域との関わりを常に念頭に於き住み慣れた場所と地域住民との信頼関係を構築した主治医の下で安心した暮らしを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のディサービス主催の夏祭りには、地域の方々の参加される。また、地域の方もボランティアとして参加して下さっている。地域の中学生との交流を、年に何度か行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会長さんを通じて、グループホームの内容や、行事等を広めて頂いている。随時、介護相談も受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多方面の方々の意見・要望・助言を頂ける様、話しやすい雰囲気作り努めている。会議内容や意見等は、他の職員に伝え、ケアの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも月に一度以上は市役所に行く機会があり担当者とも顔なじみが出来ているので、疑問点や問題点について相談にのってもらいサービスの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は時間を決めて開放し常時の施錠は行っていない。身体拘束も除が起これる場合を除いては行っていない。今後も、職員の身体拘束への知識を深め、取り組んで行きたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどの機会を利用し、職員に対し「高齢者虐待防止関連法」の理解を図り、施設内での虐待は、必ず起こさせないように努め日々、利用者や家族の立場になって介護が出来る様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある利用者に対して選択肢の一つとして話をしている。今後必要な方が利用される可能性もあるので、徐々に勉強できる機会を持つよう、努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書にそって説明を行い相談に乗るようにしている。又その際に退居の事由となる事柄についても説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、自治会を設け、意見・要望を聞く機会をつくっている。家人には意見箱の設置と岐阜県運営適正化委員会のポスターを掲示し、また、グループホーム内にも苦情受付担当者と苦情解決責任者を決めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りミーティングや、必要に応じカンファレンスを開き、話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が把握しており、常時報告し、又代表者も日に何度か往診でみえるため事業所の状況の把握は行えているため職場環境や条件の整備はおこなえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の技術・知識の向上の為、研修の案内を配布し、仕事に支障がない範囲で、参加を積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や勉強会への参加を行っている。今後はもっと積極的に行える様、検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約からサービス開始までの期間を、もっとも重要な時間であると認識しており、本人の思いや不安など、じっくり伺う時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、ご家族の思いを伺う事も重要視し、ご家族の求めている内容に対し、今後のグループホームでのケアに役立てるよう、できる事・できない事をしっかり伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャーの話を聞き、実際にご本人を訪問した後、グループホームへの入居が適切であるか、話し合いの元相談するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々は、人生の大先輩であり、介助をさせていただいているという気持ちを念頭に置き、教えて頂き、学ばせて頂いている事を意識し、日々の生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の生活の様子をご家族へ伝え、ご家族の情報や希望を教える事で、共に支えていく思いを共有できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで培ってきた、人間関係が途切れる事のないように支援している。その際は、ご家族の同意は必ず得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事など、職員も共に過ごすようにし、利用者間の関係を把握し、また、職員間での情報も共有し合い、利用者同士の関係が円滑に図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談を受け付け、必要であれば、同法人内の施設、また他施設へのサービスの紹介を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、時間の許す限り、利用者との会話の時間をもち、傾聴を行っている。意思疎通の困難な方に対しても、行動や表情等、できる限り観察するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報の保護を念頭におき、ご家族や、本人からの話を伺い、情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの情報を元に、現在の暮らし方や過ごし方を観察し、状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立った介護計画となるよう、本人はもとより、家族・他職種の職員との話し合い、介護計画へ反映し、作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の暮らしの様子や本人の言動等を記入し、介護計画の作成時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体がクリニックであるという特性を活かし、24時間体制の診療を、本人はもとより、希望があればご家族にも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向・必要性の把握が難しく、地域資源の活用には至っていない。地域密着サービスの拠点として、今後取り組んで生きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員の利用者が、経営者であるクリニックの院長を主治医としており、連携はしっかりととる事ができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、日常の健康管理・状態把握を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医師により、病院関係者との連携は密にとれており、利用者、家族への説明も丁寧に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、主治医である院長を中心に、本人・家族の意向をしっかりと伺い、ターミナルケアについての方針を決め、ターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は院長に指示を仰ぎ、院長の到着までの間応急処置を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は、消防署の協力の下、避難訓練や初期消火の方法、消防署への通報の方法等の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳が守られるよう、心掛けています。また、個人情報保護法を職員全員が理解し、守られていくよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できない方が多く、気持ちを汲み取るには、日頃の利用者の様子を観察し、確認しながら支援する事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の時間を大切にしながら、孤立を防ぐ為にも、行事の案内を行い、参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る物は、利用者に決めてもらっている。理美容に関しては、ご家族が馴染みのお店に連れて行かれることもあるが、月3回訪問の理美容師を利用されている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専属の管理栄養士がたてる、栄養のバランスの取れたメニューを、指定の惣菜店に作ってもらっている。月に1~2回程度は、レクリエーションの一環として、一緒にお菓子作りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関してもアセスメントを行い、必要な栄養・水分が摂取できるよう、食事形態や内容を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯の洗浄を行っている。また、歯科衛生士の訪問を受け、状態に応じた必要なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。必要以上の紙パンツやオムツの使用は控えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて排便コントロールを行い又、水分量を調節している。日中の体操や歩行訓練も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は、利用者の安全を考慮し、日中としている。入浴の曜日と入浴回数も希望のある方には対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを観察し、快適な休息時間が取れるよう、配慮している。不眠時の対応を充分に行っても、良眠できない日が続く方に対しては、主治医・家族と相談し、薬剤を使用する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	院長の指示通り、状態に変化等の状態観察を行っている。また、薬の変更等がある場合、申し送りされ全職員が理解してケアできるよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いや、お習字・塗り絵など個々の方の得意分野でその方の力を発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の安全性を第一と考え、外出は基本的に家族の付き添いで行う事としている。同法人内のディケアの利用は、本人の希望に合わせ、定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお財布を持ち、少額の金銭管理を行い、通信・理美容時などに使っている。家族と相談・了解を得て、今後も支援は続けていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と書中見舞いを自分で書ける方には自筆で、書けない方は職員が代筆にて家人へ発送している。玄関入り口に公衆電話が設置しており、利用者は自由に利用している。携帯電話を使用される方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に清潔にしている。フロアの飾り付けについては、利用者の方と相談しながら作品を作り、飾っている。季節感を感じられるよう、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの椅子や机の位置を、時間や活動内容に合わせて変え、気の合う利用者同士がくつろぐ事が出来る様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人・家族の方と相談のうえ、今まで使っていた馴染みの物を、可能な限り持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレまでの道順を記したり、イラスト入りの張り紙をし、どなたが見ても分かるよう工夫している。各居室に目印となる暖簾を取り付けている。		